

保育園自己評価表

2025年度

園名 認定こども園まあむキッズ相模大野北口

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
【目標】 ・思いやりのある優しい子 ・自分で決めて自分でおこなえる子 【達成度A】 子ども一人ひとりの思いや意思を大切にしながら、主体性や思いやりの心を育む保育を進めてきた。 異年齢で関わる機会を意図的に設けたことで、年下の子に優しく声をかけたり、困っている友達に手を差し伸べたりする姿が見られるようになった。栽培を通して、動植物の命や成長に触れ、世話をする中で慈しむ気持ちを育むことができた。 日常生活の中で、自分のやりたいことを考え、自分で決めて行動する姿が増え、遊びに集中して取り組むことにもつながった。さらに、一斉に同じ行動を求めるのではなく、子ども自身のタイミングを大切にし、必要に応じて声をかけたり促したりすることで、子どもの意思を尊重した保育を実践することができた。 「思いやりのある優しい子」「自分で決めて自分で行える子」という1年間の目標に向けて、子どもたちの成長を支えることができた。子ども自身が周囲の人や生き物を大切にしながら、自分の思いや考えを持って行動する姿が増え、目標の達成につながったと考える。	一人ひとりの子どもの発達や性格、興味・関心等を把握し、それぞれに応じた援助について職員間で共通理解を図りながら保育を行うことができた。安心して過ごせる環境を整え、「自分でやってみたい」という気持ちを尊重し、主体的に取り組む経験を積み重ねられるよう援助した。また、子どもの表情や仕草、つぶやき等から思いを汲み取り、気持ちを受け止めながら、発語や自己表現につながるよう職員間で情報共有を行い、連携して対応することができた。 職員それぞれの役割を明確にし、適宜声を掛け合いながら円滑に保育を進められるよう努めた。週1回の担任間での週案の共有を通して、各クラスの子どもの姿や活動内容について理解を深めることができた。また、合同での戸外活動や異年齢活動を取り入れることで、クラス間の連携を深め、保育の補助や行事等についても協力して取り組むことができた。 乳児・幼児クラス間においても、職員同士が子どもの姿や保育環境について共有し、園全体での交流を意識して取り組んだ。互いの生活リズムや発達段階を尊重しながら異年齢での関わりを増やすことで、幼児には乳児を思いやる気持ちや優しく関わる姿が見られた。また、乳児にとっても幼児の姿を身近に感じることで、模倣したり挑戦したりする機会が増え、成長につながる経験を提供することができた。	・地域の方や他園の園児さんなど進んで挨拶をするよう心掛けた。 ・地域にある施設の体操教室などに参加することで、園以外の講師との交流が持てた。 ・保育フェスでは、作品を通じて他園の方や保護者、見に来ていただいた地域の方たちと交流し、園の様子を発信したり、情報を共有したりしながら交流を深めることができた。 ・公園だけでなく地域のいろいろな施設や場所に散歩にでかけ、地域の様子やそこで働く人をみたり、自然に親しんだりした。 ・地域の小学校と連携を取り、5歳児が小学生と一緒に遊んだり、学校の中を案内してもらったりした。入学への不安が軽減された。 ・幼保小連携の取り組みとして、近隣の保育園、子ども園、小学校の先生方と意見交換をしたり、職員研修や、子どもたちの交流活動を企画するなど、前年度に引き続き多くの交流を図ることができた。 ドッジボールや、学校探検をさせていただいたり、学校を身近に感じ就学への意欲が高まった様子がみられた。 ・子育て広場では、地域の親子さんと一緒に音遊び、リトミックを楽しむことができた。

この評価のつけ方：

施設長・主任による各職員への聞き取り

B 出来ている C 未達成

達成度 A よくできている